

ポラリス『こう・ふく』アトリエ整備プロジェクト

2016年秋、ポラリスから徒歩圏に建設中の宮城病院周辺地区復興公営住宅に、被災した方々の入居が少しずつできるようになります。

ポラリスは、そのすぐ近くに一軒の民家をお借りし、地域のアトリエをつくります。

このアトリエハウスは、障害のある人だけでなく、被災などによって心を痛めている方々や地域の方々が一緒に集い、アート活動を中心に様々な活動を通して、心のケアはもとより、皆がいきいきと会話し、楽しみ、地域全体が心豊かで元気になる“場”です。



この家には、福士房(ふく)さんと清水康(こう)さんの二人の姉妹が住んでおられました。姉妹は、戦前に山元町に建てられた(旧)国立宮城病院に勤務のため、山元町に移り住んだ方々です。山元町に、国立の大きな病院ができたことで、農業中心だった町に、町外・県外から医師や看護師などの新たな人材が移り住み、地域の生活・文化・芸術の向上に影響したことは、山元町の歴史上、意味が大きいと言われていています。姉妹も当初から、地域福祉向上や文化・歴史啓蒙などに積極的に関わり、様々なボランティア活動で地域貢献をしてくださった方々でした。

姉の福士房さんは既にお亡くなりになり、妹の清水康さんは、現在は町内の施設で生活されており、ご自宅が空き家となっていました。

この度、お二人の姪で、清水康さんの後見人である清水ますみさん(東京在住)が、ポラリスの活動に共感され、この家をお借りできることになりました。

以下が、清水ますみさんのコメントです。

○小学校の頃から、この家に別荘のように通い、合戦原の自然と人々に親しみ、この土地への愛情を育みました。

○当然、おば達の山元町・合戦原への思いの深さも身近に感じていました。

○又、地元の福祉向上に積極的に関わる姿に、尊敬の念も抱いていました。

○小さい頃からの思い出の詰まったこの家、叔母達が大切に心込めて暮らしたこの家・土地は、決して不動産会社に売って現金化したりはしたくなかったのです。公共的な役割に使えるすべはないか、特に地域福祉に役立てることは出来ないかを考え続けておりました。亡くなった福士おばの気持ちも同じと思います。また、施設にいる康おばも同様の考えだったのです。

○そして、おば達が支援させて頂いていた障害者施設「地球村」とご縁のあるポラリスと巡り合い、障害者等のためのアトリエ作りが、私の気持ち・思いにぴったりと感じ、お貸しすることにしました。

○家は、築年数を経ている上、地震で傷んだ箇所も多く、その修繕も含めて可能な範囲をご支援させていただきますが、及ばない分は、ポラリスの皆さんと一緒に知恵を出し合い、工夫して整備を進めさせて頂きたいと考えております。

○この家は、おばたちの名前（清水康・福士）にちなんで、「ポラリス『こう・ふく』アトリエ」としてはどうかと、提案させていただきました。

山元町は、震災でますます交通の便が悪く、また町内には社会的に弱い立場の方々を含めた地域住民が、気軽に立ち寄り、心をケアする、あるいは心を育むため文化・芸術にふれる場所が極めて少ない状況です。清水さんのご厚意で、家屋の地震等で壊れた場所の修繕は、清水さん側で進めてくださりました。

また、ILBS国際福祉協会から、庭の環境整備（外構工事）や、アトリエハウスの看板づくり、備品、教材購入にかかる費用についてのご支援をいただけることになりました。

2016年春から、ポラリスのもうひとつの活動拠点として、アトリエ整備を進めています。

皆さんと一緒に楽しく交流できる場がもうすぐ完成します。